

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

②施設・事業所情報

名称：ヒューマンアカデミー大倉山保育園	種別：児童分野 認可保育所	
代表者氏名：佐古田直樹	定員（利用人数）： 90名	
所在地：横浜市港北区師岡町298 アドリーム大倉山1階		
TEL：045-546-3166	ホームページ： https://hoiku.human-lifecare.jp/facilities/okurayama	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2014年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：ヒューマンライフケア株式会社		
職員数	常勤職員：17名	非常勤職員：14名
専門職員	（専門職の名称）	園長：1名 保育士：16名 看護師：1名 栄養士：1名 調理員：4名 保育補助：4名 事務員：1名
施設・設備の概要	（居室数） 6室	（設備等） 調理室、遊び場、ランチルーム、調乳室、 幼児用トイレ、乳児用トイレ、沐浴室、 事務室（医務室含む）、相談室、エレベーターなど

③理念・基本方針

運営理念：「成長の環を無限にひろげる」
 運営方針：安全で安心できる保育 地域に根差した園づくり 園と保護者がともにこどもの未来を考える
 保育理念：こどもの自立の芽を育てる
 保育方針：受け止める保育、支える保育、待つ保育
 保育目標：自分で決められるこども、違いを認められるこども、命を大切にすることも

④施設・事業所の特徴的な取組

施設：東急東横線大倉山駅から約10分の幹線道路に面したマンションの1、2階に保育園があります。
 エレベーターやスロープがあり、バリアフリーになっています。
 0歳児から5歳児の定員90名の園で、開園時間は平日は7時から 20時、土曜日は7時から18時30分です。
 園庭がないため天気の良い日には近隣の公園に散歩に出かけています。公園は自然豊かな場所が多く季節を感じることができます。夏場は3階の屋上にて水遊びやプール遊びをしています。
 雨の日には幼児は遊び場というホールスペースで鉄棒や巧技台をつかった運動遊びやり

トミックをしたり、乳児はランチルームを利用して大きく身体を動かして遊んでいます。特色：保育の中では子どもたちの「やってみたい」を大切に保育をしています。子どもたちからでた意見を保育に取り入れごっこ遊びを展開するなど子どもたちが主体的に取り組み、遊びの中から多くのことを学んでいくことを大切にしています。外部講師を招いて2歳児から英語や4,5歳児はダンスがあります。またリトミックも取り組んでいます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年5月26日（契約日） ～ 2021年11月15日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（ 2018年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

◆子ども一人ひとりの育ちを大事にするため環境を整え寄り添う保育をしています
子どもたちのやりたい気持ちを大事に自由遊びの中でも制作の場面でも自分たちで選んで遊んだり、興味を持って調べたり、様々な素材で作ったりできる環境をその時々を整えています。「今は、やりたくない」気持ちも尊重し選択肢にあります。また子ども一人ひとりの多様性を受け止め、個性が尊重できるよう様々な工夫がされています。そのやり方はとても自然に普段のクラス活動の中でおこなわれており、どの子どももクラスの一員として過ごし、周りの子どもたちもクラスの仲間として分け隔てなく接し、お互いに認めあっています。保育方針の「違いを認められるこども」が育っています。

◆ICTを活用して子どもの成長や保育内容を保護者に伝えています

各保育室には職員用のタブレット端末を設置し、日誌や記録、連絡帳の入力、指導計画の作成など保育園用アプリを利用してICT化を図り、業務の効率化に役立てています。連絡帳は、保育園用アプリの連絡機能を使って保護者がスマートフォンで見られるようにし、日々の保育の様子やドキュメンテーションを毎日作成して配信しています。また、行事や成長の様子を動画にして年に数回配信をおこない、保護者から喜ばれています。廊下には各クラスのドキュメンテーションが週1回掲示され、園全体の保育の様子を知ることができます。

◆園は職員間の対話を大事にしてより良い保育を目指し、働きやすい環境を整えています

職員は職員同士や園長とも子どもたちの日々の生活のことから各クラスの保育環境、業務内容まで気軽に話しができる環境にあります。園長は職員の話をよく聞き、職員間でも話し合いを持ち、課題や要望があればそれぞれにスピード感を持って対応しています。その結果、絵本やおもちゃの充実や半休制度の整備につながりました。

◇改善を求められる点

◆さらに保育の質が高められ、職員の定着が図れるよう研修を工夫していくことが期待されます

法人本部が用意する新人研修・チューター研修・認定研修などに参加はしていますが、外部の研修には参加できていない状況です。園内研修も企画していますが、職員会議の議題の一つとして実施されています。会議の中の議題の一つではなく、研修としての位置づけをはっきりさせ、職員が意識を持って取り組み、保育の質が高められ、「この園

の保育」の自信につながることを期待されます。

◆事業報告書を充実させ組織運営のPDCAを機能させることが望めます

園には中長期計画がありますが、園児充足以外の重要課題についての具体的な目標や数値がありません。また、今年度の事業計画書に各重要課題について具体的な目標や達成方法が記載されていません。現在事業計画書、事業報告書は職員に公表していない状況にあります。今年度の事業報告書の策定に際し、職員を交えて一年間の振り返りを行って、成果・課題をまとめ、事業計画書には重要課題ごとに具体的な目標値や到達方法を示し、職員に周知することが望めます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園から8年目。通算3回目の第三者評価受審となりました。

受審にあたり、自己評価項目一つひとつに目を向け職員間での意見交換をしていく中で、良いところは園の強みとして、また改善が必要なところの検討を行うことができ、全職員が自身の保育と向き合い振り返ることができました。

保護者の皆様には、お忙しい中アンケートへのご協力ありがとうございました。総合満足度（大変満足＋満足）が95.3%という評価をいただき、職員の励みとなりました。いただいたご意見を今後の園運営に生かしていきたいと思えます。

私個人としては、園長となり初めての第三者評価の受審となりました。

前回受審時は「地域に向けた子育て支援の充実」が課題となっていたことから、地域向けアプリ「ピアッツァ」やインスタグラム、回覧板など様々な媒体を活用し、園の保育内容や情報を発信できるように力を入れてきました。今後も継続して取り組んでいき、地域に根差す保育園になればと願っています。

保育の中では「自立の芽を育てる」という理念のもと、子どもたちの「おもしろそう」⇒「やってみたい」⇒「やったらできた」というサイクルを大切にしてきました。日々の小さな「できた」の積み重ねが子どもたちの自立へとつながり、子どもたちが「次はこうしよう」と試行錯誤できる力を育てていきたい。子どもたちの「やりたい」を後ろから支えてあげる、そんな保育園でありたいと思えます。

最後に、今回の受審にあたって、お忙しい中ご調査にご協力いただきました保護者の皆様、ご尽力いただきました関係機関の皆様にご心より感謝申し上げます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり